



哲学・思想論集

第18号

平成4年度

筑波大学 哲学・思想学系

目次

ハイデガーによるキルケゴール思想の受容 ——ドイツ今世紀初頭におけるキルケゴール思想の影響・受容の局面(4)	河上正秀	一
『音楽社会学』ノート——音律理論の形成についての予備的考察——	堀池信夫	一六
デカルトと言語——二元論、普遍言語、ライブニッツ(下)	谷川多佳子	四
キリスト教聖霊運動における理論化の一事例——モートン・ケルシーの所論をめぐって——	池上良正	五
ヘルクソンの神秘主義理解について	棚次正和	七
ヘライトンの思想と自由の問題	笹澤豊	二二
物理主義と感覚質	信原幸弘	二三
研究ノート——プロティノスにおける「われわれ」(ἡμεῖς)の意味するもの——	田子多津子	二五
Der ontologische Gesichtspunkt der Hegelschen Urteilslehre	Kiichirō TAKEMURA	二六

『哲学・思想論集』編集規定

1. 本誌は、筑波大学哲学・思想学系の研究紀要として、毎年度一回発行する。
2. 本誌の執筆者は本学系の構成員とする。
3. 本誌は、哲学・思想に関する論文で、編集委員会の責任において審査されたものを掲載する。
4. 編集委員会は、哲学・思想学系長、哲学・思想研究科長、編集委員2名によって構成し、別に編集幹事1名をおく。
5. 編集委員会は、論文の審査・編集に際し必要な場合には、編集委員以外の教官の意見を求めることがある。

哲学・思想学系構成委員一覧（平成5年1月現在）

荒木美智雄	池上 良正	上笹 恒	河上 正秀	川崎 信定
◎工藤 喜作	小谷 晴勇	◎笹澤 豊	嶋田 厚	高尾 由子
竹村喜一郎	竹村 牧男	○田子多津子	棚次 正和	谷川多佳子
辻村 誠三	奈良 博順	野田 茂徳	◎信原 幸弘	◎野町 啓
広神 清	廣川 洋一	藤田 晋吾	別府 淳夫	堀池 信夫
松丸 啓子	水野 建雄			

〔五十音順：◎編集委員 ○編集幹事〕

編集 、『哲学・思想論集』編集委員会
発行 〒305 茨城県つくば市
筑波大学哲学・思想学系

印刷 筑波印刷情報サービスセンター協同組合
〔適宜変更〕
平成5年3月20日 印刷
平成5年3月28日 発行
(非売品)

STUDIES IN PHILOSOPHY

No. 18

1992

INSTITUTE OF PHILOSOPHY
UNIVERSITY OF TSUKUBA

CONTENTS

Syōsyū KAWAKAMI : Die Rezeption von S. Kierkegaards Denken bei M. Heidegger — Die Phasen der Wirkung- und Rezeptionsgeschichte von Kierkegaards Denken in Deutschland am Beginn des 20. Jahrhunderts (4)	1
Nobuo HORIIKE : A Note of "Die rationalen und soziologischen Grundlagen der Musik" — A Preliminary Study of the Making of the Musical Acoustics —	19
Takako TANIGAWA : Descartes et la question de langage au XVIIe siècle — dualisme, langue universelle, Leibniz (II)	41
Yoshimasa IKEGAMI : Theoretical Problems in the Christian Holy Spirit Movement : On the works of Morton Kelsey	57
Masakazu TANATUGU : Sur la compréhension du mysticisme chez Bergson	87
Yutaka SASAZAWA : Rights-Theory and Problem of Liberty	111
Yukihiro NOBUHARA : Physicalism and Qualia	133
Tazuko TAGO : A Note on the Meaning of "we" (ἡμεῖς) in Plotinus' Thought	153
Kiichiro TAKEMURA : Der ontologische Gesichtspunkt der Hegelschen Urteilslehre ...	182